

第8章 社会連携・社会貢献

1. 現状の説明

(1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか。

【評価の視点】

- ・産・学・官等との連携の方針の明示
- ・地域社会・国際社会への協力方針の明示

〈1〉 大学全体

《社会連携について》

1) 「学校法人順天堂社会連携推進室運営規程」を定め、「社会連携推進室」を設置している。本学の教育・研究成果及び人的資源等を活用して地域社会との連携活動を推進し、地域社会の持続的発展に貢献するとともに、本法人における教育研究活動の活性化を図る方針を明示している（資料8-1）。

2) 大学の有する教育・研究成果、人的資源等を最大限に活用し、地元自治体等の意見や住民のニーズを積極的に取り入れ、自治体と大学の将来にわたるパートナーシップを確立し、開かれた大学としてより一層社会の持続的発展に貢献していく。

（資料8-2 社会連携推進室ホームページ「学長からのご挨拶」）

《臨床研究支援について》

1) 企業や研究機関等との共同研究を推進する部署として「臨床研究センター」を設置しており、「順天堂大学臨床研究センター運営内規」を整備している（資料8-3）。本学における研究成果に基づき、企業・研究機関等と連携して疾病、負傷等に対する新しい予防・診断・治療法や医薬品・医療機器等を開発し、社会に還元するために「健康研究(Health Research)」(橋渡し研究・臨床研究)を推進するという方針を明示している。

《他学との連携について》

1) 医学と建築学の融合を図り、次世代環境医療、エコキャンパス・ホスピタル及び病院建築に関する研究を推進するため、2009（平成21）年3月に早稲田大学との研究協力協定を結び、共同研究を推進する方針を示している。

（資料8-4 学校法人順天堂と学校法人早稲田大学との共同研究協力に関する覚書）

2) 東京大学と「エコキャンパス・エコホスピタル研究協力の関する覚書」を2008（平成20）年12月に締結し、新病棟建設にその成果を反映させるようにした（資料8-5）。

《国際交流について》

1) 国際交流への取組み姿勢として、「順天堂大学 国際化ビジョン」を制定する予定である。検討されている内容は、次のとおりである。

順天堂は、建学176年に渡り学是「仁」と「不断前進」の精神に基づき、人間の生命と健康を支えるという崇高な目的のために、積極的に西欧の最先端の科学や文化を進取し吸収して知的資産を蓄積し、これらを基盤として海外に卓越した数多くの教育研究成果を発信している。今日までの国際交流において、海外の国や教育研究機関等との多様な交流を保ち、緊密に教育研究、研究者・留学生交流等を連携して友好的学術交流関係を長年培っている。健康・スポーツ・保健・医療・福祉の急速なグローバル化の中における多様な価値観の重層的な交錯する現状を鑑み、教育研究の世界展開を更に円滑に推進させるために、「国際化ビジョン」を次のとおり定める。

第8章 社会連携・社会貢献

<基本方針>

- (1) 知性と教養溢れる国際性に富んだ人材の育成を推進する。
- (2) 新たな知を創造する国際的な研究拠点形成に取り組む。
- (3) 上記(1)と(2)を確実に実現するための学内組織体制や教育研究環境を整備する。

<2> 医学部・大学院医学研究科

- 1) 地域社会・国際社会への協力量針は、次のとおりであり、シラバス・学生募集要項・ホームページ等の内容に盛り込んで公表している。

- (1) 地域の医師確保の観点から、医学部では、地域枠（東京都、新潟県）の学生受入れや地域医療に関連するカリキュラムを準備し、将来、地域医療に貢献する医師を養成する。
- (2) 各医学部附属病院においては、先進医療や日常の診療を通して、地域医療に貢献する。
- (3) 講演会への講師派遣や公開講座開催により、研究成果を積極的に社会に還元する。
- (4) 医学研究科においては、他学、研究機関等と医学教育・研究における一層の連携を深める。

<3> スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科

- 1) 地域社会・国際社会への協力量針については、ホームページ等により次のとおり公表・明示している。

- (1) 関係自治体との連携により、公開講座を積極的に開催する。
- (2) 地域の子供たちのために、各種スポーツ教室を開催する。
- (3) オリンピック・パラリンピックに代表される各種競技大会へ、選手・スタッフを積極的に派遣する。
- (4) 国内外から一流の研究者・指導者を招き、国際交流プログラム（講義・講演会・シンポジウム等）を積極的に開催する。

<4> 医療看護学部・大学院医療看護学研究科

- 1) 地域社会・国際社会への協力量針については、ホームページ等により次のとおり公表・明示している（資料8-6 医療看護学部ホームページ「教育の理念と教育目標」）。

- (1) 個人、家族および地域社会の人々それぞれに応じて、看護の実践ができる専門知識、技術および態度を習得した、より多くの質の高い看護職者を養成し、社会の要請に応える。
- (2) 英語教育や海外研修を通して、次世代の看護職者として国際的に通用し、広く保健・医療・福祉の分野においても活躍できる人材を育成する。

<5> 保健看護学部

- 1) 地域社会・国際社会への協力量針については、ホームページ等により次のとおり公表・明示している。

（資料8-7 保健看護学部ホームページ「学部の基本コンセプト」）

- (1) 保健・医療・福祉の分野を総合的に学び、地域の人々の保健衛生・健康保全に貢献できる看護職者を養成します。
- (2) 自治体及び関係機関並びに周辺大学との交流を積極的に推進し、保健・医療・福祉の分野における生涯教育の拠点として地域と共生する学部を目指します。

(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

【評価の視点】

- ・ 教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動
- ・ 学外組織との連携協力による教育研究の推進
- ・ 地域交流・国際交流事業への積極的参加

〈1〉 大学全体

《社会連携について》

1) 東京都文京区を始め、千葉県内では佐倉市、成田市、酒々井町、白井市、印西市、習志野市、栄町の7自治体及び静岡県三島市と組織的な連携体制を構築し、教育の振興、スポーツの発展、健康支援など地域社会に寄与することを目的とした取り組みを実施している。

(資料8-8 自治体との連携内容一覧)

2) 各キャンパスを拠点に公開講座等への講師派遣、自治体イベントへの参加等による地域住民との交流、地域貢献活動、スポーツ教室等の開催を実施しており、今後さらに規模の拡大等、連携事業を推進していく。

3) 2013(平成25)年度「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」(文部科学省)への事業申請を行った。『次世代を担う「こども」に対するスポーツ健康医学的支援による地域社会の再形成』をテーマに、自治体(文京区、佐倉市、酒々井町、栄町、習志野市、千葉県、印西市、白井市、浦安市、三島市)並びにNPO法人日本こどもの安全教育総合研究所と連携し、地域活性の拠点大学形成を目指すことを謳ったが、不採択であった。各自治体との連携事業を進めつつ、事業内容の見直しを実施し、2014(平成26)年度の申請も予定している。

(資料8-9 知の拠点事業概要資料)

4) 奨学目的の寄付を有効に活用した寄付講座を設置して、教育研究の豊富化や活性化を図り、人材を養成するとともに研究成果を社会に還元している。2013(平成25)年度では、16の寄付講座が設置されている。

(資料8-10 平成23年度事業報告書 「10. 寄付講座」)

(資料8-11 平成24年度事業報告書 「10. 寄付講座」)

(資料8-12 平成25年度事業報告書 「10. 寄付講座」)

5) 患者中心の医療の理念に基づき、相互補完的、且つ、質の高い医療連携及び研究連携体制を確立することを目指すため、公益財団法人佐々木研究所(杏雲堂病院)と連携協定を締結している(平成25年12月13日付)。(資料8-13 佐々木研究所連携協定)

《臨床研究支援について》

1) 相互の研究能力と人材を活かし、国内外の学術及び技術の振興と有為な人材の育成に資するため、独立行政法人理化学研究所と連携基本協定を締結している(2012(平成24)年4月26日付)。基本協定に基づき、2012(平成24)年8月より理化学研究所のCAGE(Cap Analysis of Gene Expression)法を用いたがんバイオマーカーと臨床応用に関する共同研究を開始している。(資料8-14 本学ホームページ「順天堂大学と理化学研究所が包括的基本協定」)

2) 医療実績、臨床現場からのニーズと企業の総合的な技術力を結びつけることによって、医療・ヘルスケア分野の先端医療機器や情報システムなどの開発を行うことを目的として、株式会社日立製作所と連携基本協定を締結している(2012(平成24)年10月1日付)。基本協定に基づき、再生医療、超音波、画像診断などの分野の共同研究を2013(平成25)年10月よ

第8章 社会連携・社会貢献

り順次開始している。

(資料8-15 本学ホームページ「順天堂大学と日立が包括的な産学連携の協定を締結」)

- 3) 臨床研究センターでは、文部科学省がんプロ養成基盤推進プラン採択事業、がん専門医療人養成コース、東京大学医学部大学院等との連携大学院を通じて医師・コメディカル・がん専門医に対する生物統計教育、臨床試験デザインに関する教育を行っている。また、多施設共同研究者主導型臨床研究の支援を行っている。

(資料8-16 臨床研究センター月例会議資料 (2014年2月))

《他学との連携について》

- 1) 早稲田大学との共同研究は主に4つのテーマに沿ったWGを中心に共同研究を進めている(高層病院の安全、高層病院の避難、エコ技術、感染環境制御、環境発がん制御)。本学で実施している新病棟の建築に研究の成果を活かすため、同大学と本学の共同研究に清水建設技術研究所も共同研究契約を締結のうえ参加している。

(資料8-17 次世代環境医療研究会組織図)

(資料8-18 共同研究契約書 (エコ技術))

(資料8-19 共同研究契約書 (高層病院の安全))

(資料8-20 共同研究契約書 (病棟の避難))

- 2) 東京大学とは、同大学が推進する「東大サステイナブルキャンパスプロジェクト (TSCP)」産学連携研究会に参加し、新棟建設に役立つ情報の提供を受けた。

《国際交流について》

- 1) 国際交流は、大学を挙げて積極的に推進し、2014(平成25)年3月末現在、国際交流協定校12カ国、32校、各講座の海外交流校19講座、20カ国、101校と国際交流活動を進めている。

(資料8-21 平成25年度事業報告書 「17. 国際交流活動」)

- 2) 学外組織の JICA や日本皮膚科学会等の支援を得て、タイ国・皮膚病学ディプロマコース派遣事業を Institute of Dermatology (IOD) (タイ・バンコク) において1976(昭和51)年から開催している。現在11ヶ月のコースで運営され、これまで約900名の修了者がいる。

- 3) 北京大学—順天堂大学国際学術シンポジウムを、国際交流協定に基づいて実施している。その目的は、両大学から精鋭の研究者が国際的にトップレベルの学術的交流を果たし、両大学での共同研究をさらに進展させることである。これまで2010(平成22)年と2011(平成23)年に順天堂大学で、2012(平成24)年に北京大学で開催している。

(資料8-22 2011 2nd International Academic Joint Symposium
Juntendo University-Peking University)

- 4) シャリテ医科大学と順天堂大学ジョイント・シンポジウムを2010(平成22)年にシャリテ医科大学で、2011(平成23)年に順天堂大学で開催している。

(資料8-23 第2回シャリテ医科大学—順天堂大学 ジョイント・シンポジウム
プログラム)

- 5) 学内・学外の臨床医ならびに研修医とともに、進歩の極めて早い現代医学の最先端情報を学ぶ目的で、2010(平成22)年から毎年アジア太平洋メディカルフォーラムを開催している。これまで「糖尿病の病体と膵β不全」、「成人病は胎児期から始まる」—小さく産んで大きく育てるのは、成人病のハイリスク、「肺癌の分子標的治療」「歴史的局面を迎えた肺癌外科治療」、「大腸癌の外科治療」をテーマとしたフォーラムを開催した。

第8章 社会連携・社会貢献

(資料8-24 アジア太平洋メディカルフォーラム プログラム)

- 6) 東京医科歯科大学との共同プログラムを2013(平成25)年から整備し実施している。主として両校の留学生の交流や日本語教育について相互に協力体制を整備している。

(資料8-25 東京医科歯科大学*順天堂大学 餅つき大会 案内)

- 7) タイ・マヒドン大学や高麗大学医学部、韓国保健福祉部、中国・安徽省衛生庁訪日団等の表敬訪問が2013(平成25)年度で14件あった。

(資料8-26 2013(平成25)年度 表敬訪問一覧)

〈2〉 医学部・大学院医学研究科

- 1) 医学部主催の公開講座は、「都民公開講座」として、東京都・東京都医師会の後援を得て開催している。本学部・研究科の教育研究上の成果を一般市民に公開するという地域貢献活動として行われている。医学部教員が演者となって、毎回400名以上の参加者に理解しやすいよう配慮して講演を行っている。
- 2) 各附属病院では、先進医療を積極的に実践し、それぞれ所在している地域の医療にも貢献している。具体的には、①日常診療におけるスムーズな医療連携、②地域の医療従事者への医療情報の提供、③医師会や自治体主催の講演会等への講師派遣、④地元住民に医療知識等の学習機会を提供する市民公開講座・研修会、⑤本学の諸活動の広報として地域医療機関や地域の住民への情報提供などを定期的に、各附属病院の特色に合わせて実施している。各附属病院の活動状況は以下の通りである。

(資料8-27 平成23年度事業報告書

「15. 公開講座」、「16. 社会貢献・地域交流・ボランティア活動」)

(資料8-28 平成24年度事業報告書

「15. 公開講座」、「16. 社会貢献・地域交流・ボランティア活動」)

(資料8-29 平成25年度事業報告書

「15. 公開講座」、「16. 社会貢献・地域交流・ボランティア活動」)

- 3) 順天堂医院(本院)では、文京区、千代田区、中央区、台東区等の開業医師を招いた情報交換会「医療連携を共に考える会」を毎年2回行っている。公開講座は、「市民公開講座」「がん研修会」「緩和ケア研修会」と題し、年6回開催している。また、2012(平成24)年4月より、東京都認知症疾患医療センター運営事業における、区中央部(中央・千代田・港・台東・文京)認知症疾患医療センターとしての委託を受け、認知症に関する鑑別診断、身体合併症と周辺症状への対応、専門医療相談、地域の保健医療・介護関係者等との連携の推進、認知症疾患の保健水準の向上を図るとともに、年3回「認知症疾患医療・介護連携協議会及び研修会」、年1回「看護師認知症対応力向上研修」を開催している。更に、認知症早期発見・早期診断推進事業においてもアウトリーチチームとして、区が配置する認知症コーディネーターとともに、認知症の疑いがある人を訪問し、状態に応じて適切な医療・介護サービスが受けられるよう支援を行っている。2013(平成25)年度は、自治体主催のイベントや離島医療へ、看護師等を派遣した。
- 4) 静岡病院は、静岡県東部におけるドクターヘリ運航基地病院、三次救命救急センター、新生児センター、総合周産期母子医療センター、地域がん診療拠点病院、地域肝疾患診療連携拠点病院、災害拠点病院、広域救護病院となっている。地域がん診療連携拠点病院として、年6回、がん等の市民が関心を寄せる演題にて市民公開講座(内2回は伊豆の国市と協賛)を

第8章 社会連携・社会貢献

開催している。また、医師・看護師を対象に東部周産期研究会を年3回開催している。なお、地域医療機関、近隣の市町村へ静岡病院ニュースを年4回発行している。また、高校生向けの1日ナース体験には、66名の参加者があった(2013(平成25)年度)。

(資料8-30 静岡病院ニュース No. 56、58)

- 5) 浦安病院は、千葉県東葛南部の地域医療拠点病院(三次救命救急センター及び周産期医療を実施)、地域がん診療連携拠点病院、全県対応型脳卒中・急性心筋梗塞連携拠点病院である。地域医師会との連携を図るために医療連携フォーラムを年5回開催している。また、地域住民向けに市民公開講座を年10回、糖尿病教室を年7回開催しているほか、地域がん診療連携拠点病院としてがん患者への相談会、東葛南部地域難病相談・支援センターとして難病患者に関する講演会や相談会、浦安市健康フェアへの参加、高校生向けの1日看護体験を行っている。
- 6) 順天堂越谷病院は、埼玉県内精神科救急医療システムとの連携、内科をコアとする総合診療科中心の地域医療の実践を行っており、埼玉県内の病院には多数の医師を派遣している。近隣在住者向けに年3~4回、うつ病や認知症を中心とした精神科領域、膠原病やパーキンソン病、消化器疾患といった難病治療に即した公開講座を実施している。また、精神医療関係者向けに年2回、埼玉東部精神医療フォーラムを開催するとともに、越谷市、春日部市、さいたま市等、自治体主催の市民公開講座にも協力している。
- 7) 順天堂東京江東高齢者医療センターは、高齢者医療・地域医療の拠点病院である。開院時より関係地区医師会をはじめとする関係諸機関との緊密な連携を図るため、地域連携協議会・運営協議会を年2回開催し、区民健康講座を年8回開催している。また、地域の中学生を対象に職場体験(看護・リハビリ領域)を年2回行っている。
- 8) 練馬病院は、地域医療の拠点病院である。地域連携フォーラム(2013(平成25)年度:5回)や区民健康医学講座(2013(平成25)年度:6回)などの各種講演会、地域医師会医学会等への講師派遣依頼に対応している。開院時より練馬区民の代表や有識者、区議会議員等からなる運営連絡協議会を年2回開催している。小学生・中学生向けの病院見学会、中学生職場体験、自治体主催の看護体験を行っている。また、未来の医療従事者を育成することを目指し、夏休みに合わせて小学生を対象とした病院体験会「C-CUBE」を開催しており、2013(平成25)年度で5回目の開催となった。
- 9) 各附属病院は、被災地への医療支援隊の派遣、患者の治療、医薬品・医療材料等の支援を通じて、東日本大震災に対する支援活動に積極的に取り組んでいる。震災直後の2011(平成23)年度には、計49隊・108名の医療関係者を派遣した。2012・2013(平成24・25)年度についても、福島県・岩手県を中心に、医師・看護師・技術員を派遣し、医療支援・救護活動を継続している。

(資料8-31 平成23年度事業報告書

「19. 東日本大震災に対する順天堂医療支援活動について」)

- 10) 本院と分院が有機的に連携し、本学の教育・研究・診療活動を推進している。分院は、地域医療に関する教育施設として不可欠であり、分院の教育活動・機能を向上させることが、本学の医学教育全体を向上させ、その結果が分院を通して地域医療に反映され、貢献に繋がっている。
- 11) 分院は、卒前・卒後教育上、重要な教育研究施設であり、本学の医学・医療を地域医療と

第8章 社会連携・社会貢献

して還元するための出口としても機能している。卒前・卒後教育において、適宜個人の学習・研修等の要望に応えつつ分院にローテーションさせている。地域医療に関する医師としての知識・技術から、各科専門医及び地域医療を担える総合医までを育成する教育施設として、地域社会に貢献している。

- 12) 地域医療に関連するカリキュラムを自治体等の協力を得て更に整備することにより、地域医療に興味をもつ学生に対して多様な教育プログラムを提供している。

(資料8-32 地域卒学生カリキュラム)

- 13) 社会人入試の実施や、医科学専攻(修士課程)における昼夜開講制の実施、VOD講義等の受講による単位認定を積極的に実施するなど、すでに社会の中で活躍している大学院生が最新の医学知識・技術を習得する等の生涯学習の機会を提供している。

- 14) 2007(平成19)年度の「がんプロフェッショナル養成プラン」に引き続き、2012(平成24)年度「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」に採択された。本事業では、本学及び連携医科系大学(島根大学、鳥取大学、岩手医科大学)と非医科系大学(東京理科大学・明治薬科大学・立教大学)をICTと循環型人材交流で結び、地域から世界まで、さらに基礎から臨床まで俯瞰するがん研究者・医療人の養成を図っている。加えて、一般市民のがんに対する理解の促進を図るための市民公開講座や医療関係者を主な対象にがん研究の動向の周知を図る国際シンポジウム等を実施している。

(資料8-33 順天堂ホームページ「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」)

(資料8-34 順天堂大学における社会貢献(平成25年度))

- 15) 医学研究科では、医学教育ならびに医学研究のより一層の連携を図るため、2012(平成24)年度より、独立行政法人 国立がん研究センターとの連携大学院制度を開始し、「最先端がん臨床研究コース」を設けた。当該制度においては、レジデントなどの国立がん研究センター職員が、国立がん研究センターに在籍しながら、国立がん研究センター内で本学大学院医学研究科博士課程の授業科目(大学院の専門プログラム)の単位修得を可能とし、国立がん研究センターで行った研究成果をもって学位取得ができる。

(資料8-35 国立がん研究センター最先端がん臨床研究コース)

- 16) 2003(平成15)年度からの「首都大学院コンソーシアム」の締結による学術交流に加え、複数の大学院と協定を締結し、本学大学院生が特別研究学生等として当該大学院の教授のもとで研究を行うなどの交流を図っている。

(資料8-36 順天堂大学における大学間連携(H25実績))

- 17) 学外施設学修制度により、申請に基づき、大学院のみならず、地域の医療機関や研究所等における実習・研究等についても認めており、学外組織との連携協力による教育研究や、大学院生による地域交流・地域貢献を推進している。

(資料8-37 学外施設学修申請書)

〈3〉 スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科

- 1) 生涯学習事業として、公開講座運営委員会プロジェクト委員会が中心となり、公開講座を地方自治体と共催している。2011(平成23)年度から2013(平成25)年度は4講座が開講された。

連携自治体	テーマ	開催回数	参加者
酒々井町及び印西	生涯学習公開講座	全4回	年間で平均70名

第8章 社会連携・社会貢献

市教育委員会	「スポーツへのいざない」		
酒々井町健康課	「スマイルヘルシー教室」	全12回	2011（平成23）年度 開催：40名
浦安市総合体育館	「スーパーなわとび教室」	年1回	年間で平均40名
札幌市、広島市	体育施設運営士養成講習会 兼順天堂大学公開講座	年2回	年間で200名を養成

2) 国際シンポジウムは、学内関係者だけでなく、一般参加者や他大学、各地教育委員会、関連企業の方々など多くの参加を得ている。

(1) 順天堂大学主催 国際シンポジウム

年度	テーマ	参加者
2011(平成23)	健康と生きがい ～地域の中で共にいきいきと幸せに生きる～	180名
2012(平成24)	スポーツにおけるグローバル人材の育成	150名
2013(平成25)	女性アスリートの競技力向上を目指して	300名

(2) 順天堂大学ヘルスプロモーション・リサーチ・センター主催 国際シンポジウム

年度	テーマ	参加者
2011(平成23)	「健康格差社会への提案」～幸せな未来の創造をめざして～	300名
2012(平成24)	「ヘルスプロモーションの理念と健康都市づくり」	300名
2013(平成25)	「健康のための身体活動（運動）への介入」 ～現代の刷新的なアプローチ～	300名

3) 地域連携事業については、以下の自治体と連携協定を締結した。

2012（平成24）年10月	佐倉市	2014（平成26）年1月	印西市
2013（平成25）年12月	成田市	2014（平成26）年2月	習志野市
2013（平成25）年12月	酒々井町	2014（平成26）年3月	栄町
2013（平成25）年12月	白井市		

4) 地域連携事業の一環として、印西市・佐倉市・酒々井町・成田市・習志野市の学校教育現場（小学校・中学校・特別支援学校）への学習指導補助、プール指導、運動会補助、防災体験宿泊等、年間12日、のべ70人の学生ボランティアを派遣した（2013（平成25）年度）。

5) 全ての運動施設を、本学部の利用規程に則り、希望者に一般開放している。

（資料8-38 さくらキャンパス施設使用規程）

6) サッカー場を、各種団体へ開放している。NPO法人レーベンのサッカー教室を週2回（木・土）開催し、学生も指導者として参加している。レーベンの会員数は100名で、学生指導者は13名である。

7) 体操に興味を持つ小・中学生を対象として、毎週日曜日「順天堂大学体操教室」を開講している。会員数280名、指導者16名で指導を行っている。

8) 陸上競技場にて年間10回程度、中学生から一般の方を対象とした「順天堂大学陸上競技記録会」を開催している。1回あたり約500名から600名、延べ6,000名程度が参加している。

9) バレーボール館を開放し、バレーボールに興味を持つ小学生を対象として、「順天堂大学バ

第8章 社会連携・社会貢献

レーボール教室」を毎週火曜日に開催している。会員数は150名で、バレーボール部所属の学生約65名が指導にあっている。

- 10)産官学連携事業として、「瞬足陸上教室」を株式会社アキレスとの共催で2009（平成21）年度より毎年開催している。小学校3年生から6年生を対象に年3回開催し、参加人数は約100名である。
- 11)「体育施設管理士養成講習会」を、財団法人日本体育施設協会と共催にて、年2回（計7日間）開催している。
- 12)東京オリンピック・パラリンピック誘致活動をはじめとしたスポーツ事業について、各教員が要請を受け、委員会活動に携わっている。特に、日本オリンピックズ協会会長は本学教員であり、2020（平成32年）の東京オリンピック・パラリンピック誘致に積極的に協力した。
- 13)印西市との「いんざいまちづくり懇話会」に、学部長と幹事（教員2名）が参加し、印西市内の産・学・官の連携事業の計画立案に携っている。
- 14)ボランティア活動として、四街道市、船橋市、市川市、千葉市、松戸市、安食町の学校教育現場（小学校・中学校・特別支援学校）への学習指導補助、プール指導、運動会補助、防災体験宿泊等、12日間でのべ70人の学生を派遣した（2013（平成25）年度）。
- 15)東日本大震災被災地ボランティア活動として、2012（平成24）年に岩手県大槌町へ3日間、2013（平成25）年に宮城県仙台市石巻町へ4日間、災害ボランティア計40人を派遣し、瓦礫の撤去や公園の整備等の活動を行った。
- 16)オリンピック・パラリンピックへの選手・スタッフ派遣状況については、第30回オリンピックロンドン大会（2012（平成24）年）では、18名の在学学生・卒業生が選手・役員・コーチとして参加し、男子体操団体の銀メダル獲得に大きく貢献した。また、第14回パラリンピック（2012（平成24）年）にも、本学関係者から4名の指導スタッフが参加した。第22回ソチオリンピック冬季大会（2014（平成26）年）はコーチとして1名、ソチパラリンピック冬季大会へ選手1名が参加している。今後も様々なスポーツ競技で在学学生や卒業生の活躍が期待される。

〈4〉 医療看護学部・大学院医学研究科

- 1)千葉県、浦安市、千葉県看護協会等からの本学部の教員に対する委員就任の協力要請に対し、2011（平成23）年度は26人、2012（平成24）年度は20人、2013（平成25）年度は18人の教員を派遣して活動の企画・運営に参画している。
- 2)全国の大学・高校・病院からの講演・研究指導等の講師派遣要請に対して、2011（平成23）年度は11件、2012（平成24）年度は15件、2013（平成25）年度は11件の協力している。
- 3)毎年1回公開講座を浦安市教育委員会の後援を受けて一般市民を対象に開催しており、毎年40名前後の一般市民の参加を得ている。

年度	テーマ
2011(平成23)	家庭で役立つ応急処置～日頃からの備えで安心～
2012(平成24)	今こそ災害対策を！～みんなで創る災害に強い街～
2013(平成25)	運動って楽しいね～親子で運動の楽しさを見つけよう～

- 4)2006(平成18)年より順天堂大学医学部附属浦安病院、千葉県臨床検査技師会、浦安市医師会

第8章 社会連携・社会貢献

との共催による「浦安ベイサイドフォーラム」を実行委員会形式で開催しており、毎回 200 名前後の参加者であった。

年度	テーマ
2011(平成 23)	信頼と安全を生む医療の充実に向けて
2012(平成 24)	いきいき健康ライフ～すぐに役立つ医療のポイント

- 5) 学生においては、順華祭（学園祭）において参加型の看護体験の企画を毎年行っている。また、病院内でのボランティア活動として小児科での患児の支援（チャイルドサポート）、障がいを持った子どもたちへの支援（ともボランティア）や東京進行性筋委縮症協会江戸川支部の企画への支援、在宅患者への支援を行っている（東筋協サークル）。
- 6) 2013（平成 25）年 8 月 28 日に、テディベアクリニックサークルの医療看護学部学生 8 名は、スポーツ健康科学部の学生 3 名と協力し、東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響で福島県会津若松市内に避難している大熊町立大熊幼稚園児を対象にして、ぬいぐるみを用いて保健教育や病院に対する恐怖心をなくしてもらうための活動を行った。
- 7) 2012（平成 24）年度から教員の指導のもと、学生は浦安市の「学生防犯委員会 V5」に 5～10 名程度の有志学生が毎回参画し、他大学と合同で自転車盗難の防止を中心とした活動を行っている。
- 8) 浦安市の要請により 2013（平成 25）年度から「うらやすこども大学」事業に協力している。2013（平成 25）年度は市内在住の小学 4 年生から 6 年生 91 名を対象に専門性の高い授業・演習を実施した。
- 9) 2013（平成 25）年 11 月 9 日、認知症に対する正しい理解の啓発活動「2013 認知症メモリーウォーク千葉 in 浦安」に教員 5 名、大学院生 1 名が救護班として参加協力した。

＜5＞ 保健看護学部

- 1) 三島市との間で、文化・医療・教育・学術など様々な面で相互に協力し、地域の活性化、産業の発展を目的として連携協働協定を締結している。（資料 8-39 三島市との協定書）
- 2) 教員によるシンポジウムや研究会、地域での勉強会、講演会、論文等の執筆などを通じて教育研究成果を社会へ還元している。静岡県、三島市、看護協会等からの本学部の教員に対する委員就任等の協力要請に対し、積極的に教員を派遣し活動の企画・運営に参加している。三島警察署協議会、三島市高齢者福祉及び介護保険運営懇話会、静岡県看護協会の保健師・看護師職能委員会、学術研究推進委員会、認定看護師管理者教育運営委員会への委員派遣を行っている。
- 3) 三島市教育委員会主催「みしま教養セミナー」に、専任教員が毎年 1 講座を担当し「心と身体健康」をテーマに講義をしている。

年度	テーマ	参加者
2011(平成 23)	高齢化社会で元気に過ごすための生活	69 名
2012(平成 24)	ストレスマネジメント～心と体をリラックスさせましょう！	91 名
2013(平成 25)	ぐっすり眠れていますか？～睡眠と生活習慣病との不思議な関係～	133 名

- 4) 社会貢献及び地域交流の一環として、自治体、外部団体等から要請される教員への講演会・シンポジウムでの講演・講師依頼に対して、協力を行っている。また、地域の人々も参加す

第8章 社会連携・社会貢献

る順咲祭（大学祭）において、学生が研究展示の企画を行っている。なお、順咲祭では、障がい者支援センターの自主生産品販売ブースを設置している。

- 5) 一般市民対象の公開講座を毎年1回開催している。

年度	テーマ	参加者
2011(平成 23)	健康な生活を送るために日頃は余り意識しない「良い呼吸」について考えてみませんか？	196名
2012(平成 24)	女性の元気は地域活力の源。性差を考慮した健康づくりの大切さを考えてみませんか。	172名
2013(平成 25)	知って得する！メンタルヘルス講座～ストレス対処力(SOC)を高めるために～	86名

(資料8-40 保健看護学部 公開講座のお知らせ)

- 6) 学会を始めとした各種社会活動や行政・看護研修会等への施設利用を認めている。また、地元住民の早朝ウォーキング、休日テニスなどに、多目的グラウンドを登録制で貸出している。

(資料8-41 順天堂大学三島キャンパス施設利用規則)

- 7) 静岡県、三島市とのリバーフレンドシップ制度締結による、学生ボランティアサークル（大場川クリーンズ）が、地元を流れる大場川の清掃活動を年5～6回実施している。

- 8) 市、町内会の行事、イベントへの学生・教職員有志の参加及び施設の貸出を行っている。

- ・大宮町夏祭りフェスタ菰池
- ・静岡県「子供は地域の宝事業」の三島市大宮町子ども会主催イベント
- ・三島市地球温暖化防止イベント「キャンドルナイトみしま」

- 9) 三島市「自殺予防週間」期間中の一日、公衆衛生看護学教員と学生が、三島駅で自殺防止をよびかけるキャンペーンに参加している。

- 10) 三島市「ガーデンシティみしま推進会」に参画し、市内の美化、花の街づくり活動に賛同している。

- 11) 公衆衛生看護学の演習に、地元町内の方々が「教育ボランティア」として参加し、感想・意見を述べる機会を作っている。

- 12) 三島市と大学生によるスマートフォン用アプリ（市民の健康づくりと地域の活性化を目指したアプリ）の共同開発に学生が参画している。

2. 点検・評価

[基準8]

大学は、社会との連携と協力を配慮し、教育研究の成果を広く社会に還元しなければならない。

●基準8の充足状況

地域社会との連携は「社会連携推進室」、研究機関との連携は「臨床研究センター」、国際交流・国際化は「国際交流センター」がそれぞれ中心的な役割を果たし、全学を挙げて推進している。自治体との連携協定締結も進み、教育研究成果を社会に還元する各種取り組みが行われている。公開講座・シンポジウム開催や講師派遣も積極的に行われている。他学、学外研究機関、企業との連携も進み、特許出願等の成果が出ている。また、医学部附属病院を通じた地域医療への貢献も果たしている。以上のことから、同基準を満たしている。

第8章 社会連携・社会貢献

①効果があがっている事項

〈1〉 大学全体

《社会連携について》

- 1) 社会貢献については、本学の特性を活かし、研究成果の社会的な還元という観点から公開講座やシンポジウム・学術講演会等が数多く開催できている。医学関係では最新の情報や技術等の提供があり、スポーツ関係では子供やスポーツに興味のある青少年等のための運動プログラム等を行い、また看護関係では、市民参加型の体験学習等を、精力的に行っている。
- 2) 2013（平成 25）年 4 月に社会連携推進室を設置し、社会への情報発信手段として、本学のホームページ上に社会連携推進室のページを開設した。本学の積極的な情報発信により、本学の取組（公開講座の開催等）、自治体との連携した取組を周知することが可能となった。また 4 キャンパス内に社会連携推進室分室を整備し、専任職員を配置することで、窓口の所在が明確となり、多様な問い合わせへの対応が可能になった。

（資料 8－42 社会連携推進室ホームページ）

《臨床研究支援について》

- 1) 独立行政法人理化学研究所との基本協定に基づき実施しているがんバイオマーカー共同研究の成果として、2013（平成 25）年度に特許 5 件を共同出願している。2011（平成 23）年度～2013（平成 25）年度に本学として出願した特許は 36 件（うち外国出願 6 件）、共同出願した特許は 18 件となっている。2011（平成 23）年度と 2012（平成 24）年度出願特許のうち 10 件が公開され、2011（平成 23）年度出願特許のうち 2 件が特許査定となっている（平成 26 年 3 月 25 日現在）。

《他学との連携について》

- 1) 共同研究では建築学と医学の融合を図るとともに、医療現場の視点も取り入れて研究を進めてきたことから、より実用的な成果を上げることができた。国内初となる非常用エレベーターを避難誘導に活用できる「高層病棟避難安全システム」の適用を受けたほか、エコ技術、感染制御技術、病室環境改善および医療施設の災害対策などで多くの成果を上げている。また、これらの研究成果を社会に還元すべく、早稲田大学との共催により次世代環境医療シンポジウムを開催している。医療、建築、製造業界を中心に参加者は両シンポジウムとも 350 名を超えた。

開催時期	テーマ
2011（平成 23）年 6 月	エコロジーと耐震強度を考えた新世代病院と非常時への備え
2013（平成 25）年 1 月	安心と癒しとエコロジーに配慮した最新の病院 —最新の ICT 化病院とその理想像—

（資料 8－43 2014（平成 26 年）2 月 21 日（金）東京新聞「東京消防庁新基準適用第 1 号 順天堂の新病棟で訓練」）

（資料 8－44 次世代環境医療研究会 2013 年度報告書）

（資料 8－45 第 1 回次世代環境医療シンポジウムポスター）

（資料 8－46 第 2 回次世代環境医療シンポジウムポスター）

（資料 8－47 第 3 回次世代環境医療シンポジウムポスター）

（資料 8－48 第 4 回次世代環境医療シンポジウムポスター）

《国際交流について》

1) 国際交流センター長を中心として、その下で本学の国際交流に関する運営母体の JIIC (Juntendo University International Center) 教育委員会が毎月開催されている。委員会では、審議事項のほかに、定型的な報告事項として、国際交流協定校情報、来訪団体、海外からの医学部短期研修、留学生状況、奨学金、英文 HP、文化教育活動、病院診療支援状況等の報告等を行っている。本学の国際交流に関する運営母体として有効に機能している。

〈2〉 医学部・大学院医学研究科

1) 2012 (平成 24) 年度、2013 (平成 25) 年度の入学志願者に占める社会人の割合が約 3 割になるとともに、「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」採択により 2013 (平成 25 年度) 年度に新設された「次世代先導的がん研究者養成コース」は、がん治療認定の申請資格の単位の一部として認められるなど、すでに社会の中で活躍する医師の生涯学習の機会として十分な役割を果たしている。

2) 「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」による市民公開講座や国際シンポジウムには、多数の参加者を得て、十分な教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動を行っている。

3) 2012 (平成 24) 年度より開始した独立行政法人 国立がん研究センターとの連携大学院制度により設けられた「最先端がん臨床研究コース」には多くの入学者があり (2012 (平成 24) 年度 : 23 名、2013 (平成 25) 年度 : 13 名)、全員が順調に単位取得し、進級できている。

〈3〉 スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科

1) 社会連携推進室分室の設置により、周辺自治体との連携が進んでおり、市町村との公開講座・学術支援・スポーツイベント・学生ボランティア派遣等の活動が増加している。

2) 中学校・高等学校の部活動に対する体育施設開放に加えて、2011 (平成 23) 年度からは地域の小学生を対象としたサッカー・体操・バレー等の教室を開講しており、好評を博している。

〈4〉 医療看護学部・大学院医療看護学研究科

1) 毎年 1 回、定期的に健康増進や保健衛生に関するテーマで公開講座を開催し、教育研究を社会に還元できている。

〈5〉 保健看護学部

1) 本学部と三島市との間で、文化・医療・教育・学術など様々な面で相互に協力し、地域の活性化、産業の発展を目的として連携協働協定を締結することができた。

②改善すべき事項

〈1〉 大学全体

《社会連携について》

1) 4 キャンパス、6 附属病院の多様な取組みについての情報収集とホームページ等での情報発信は、現在、社会連携推進室で行っているが、更なる取組みの強化が望まれる。今後は、学内外の各種情報の収集を可能とするためにも、各キャンパス・附属病院の担当者により一層の連携を図り、サービス向上を目指したい。

第8章 社会連携・社会貢献

《臨床研究支援について》

- 1) 独立行政法人理化学研究所と株式会社日立製作所との連携共同研究の進捗・研究成果については、共同研究発表会、ワークショップを通じて共同研究者間の情報共有を図っている。しかし、論文発表を通じての社会への研究成果情報の提供は、まだなされていない。
(資料8-49 理研・順天堂共同研究発表会ポスター)

3. 将来に向けた発展方策

①効果があがっている事項

〈1〉 大学全体

《社会連携について》

- 1) 引き続き、本学の特性を活かし、公開講座・シンポジウム・学術集会を開催することで、教育・研究成果を社会に還元していく。また、地域社会と連携した地域課題解決のための教育プログラムについても検討する。
- 2) これまでも様々な社会連携活動(研究成果の発信、公開講座の開催、ボランティア活動等)を実施しているが、教員個人と自治体、研究室と自治体等の個々の取り組みも多く、大学が把握していない社会貢献活動も数多く存在している。これらを社会連携推進室及び社会連携推進室分室にて把握、認識することにより、必要に応じて支援を行い、さらなる活動の充実を図る。このように社会連携推進室の機能強化によって、従来の事業の内容の充実、規模の拡大並びに新規連携事業への取り組み等の推進を担い、人々の健康維持・増進・回復に寄与すべく、広く社会に還元できる体制の確立を目指す。

《臨床研究支援について》

- 1) 独立行政法人理化学研究所との連携共同研究において共同出願した特許について、バリデーション研究等を通じて実用的ながんバイオマーカーを絞り込み、追加特許出願、優先権主張出願、外国出願を目指す。

《他学との連携について》

- 1) 新病棟の竣工により、建築に関する共同研究は各グループの研究の総括を行っている。基礎研究部会は今後も研究を継続していく。感染環境制御 RG では透析病棟等の室内環境の測定を建替前から行っており、新病棟との比較が可能となる希少な研究データの蓄積が進んでいる。また共同研究の成果を新病棟に導入していることから、技術検証を行うなど今後の発展が期待できる。

《国際交流について》

- 1) JIIC 教育委員会において、今後、教職員や学生の国際交流に関する事項に加えて、国際レベルでの科学研究や共同研究に関する事項について、国際交流の観点から積極的に関与していく。

〈2〉 医学部・大学院医学研究科

- 1) 引き続き、ホームページや募集要項、研究科説明会等において、社会人入学者へのサポートを含めた周知を図る。
- 2) 「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」におけるシンポジウム等の開催にあたっては、海外の教員の招聘、テレビ会議システムによる海外の教育研究機関との共同開催等により、国際化をより推進するとともに、幅広い方の参加を得られるよう適切な周知を図

る。

- 3) 連携大学院制度については、2014（平成 26）年度より新たに「高度専門医療研究コース」（国立国際医療研究センター）及び「アレルギー・臨床免疫研究コース」（国立病院機構相模原病院）の2つのコースを開設する。

〈3〉 スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科

- 1) 社会連携協定を締結した自治体と合同で公開講座やシンポジウム・学術講演会・スポーツイベント等の行事を積極的に開催する。
- 2) 地域の小学生を対象とした、サッカー・体操・バレーの各教室を継続して開催することで地域に貢献していく。

〈4〉 医療看護学部・大学院医療看護学研究科

- 1) 公開講座開催回数を増やし、地域住民の健康増進、保健衛生に貢献する。

〈5〉 保健看護学部

- 1) 三島市との連携協働協定に基づき、連携項目を増やすべく、検討・協議を進める。

②改善すべき事項

〈1〉 大学全体

《社会連携について》

- 1) 今後、教職員、学生が社会連携活動を行っていくうえで、FD等を実施し地域貢献活動の意義や活動についての周知が望まれる。大学全体で取り組みを実施することにより、講師の派遣や学生ボランティア活動等実施にあたって、従来あった様々な要因（特定の教員への依頼数過多、周囲の不理解等）からくる弊害を減少させ、活動がより円滑になるよう環境整備を行う。

《臨床研究について》

- 1) 連携共同研究の研究成果は、引き続き共同研究発表会、ワークショップにて発表し、共同研究者間の情報共有と研究促進を図るとともに、研究者との研究相談等を通じて、論文発表を促して行く。

第8章 社会連携・社会貢献

4. 根拠資料

- 資料8-1 学校法人順天堂社会連携推進室運営規程
- 資料8-2 社会連携推進室ホームページ「学長からのご挨拶」
- 資料8-3 順天堂大学臨床研究センター運営内規（既出 資料7-14）
- 資料8-4 学校法人順天堂と学校法人早稲田大学との共同研究に関する覚書
- 資料8-5 エコキャンパス・エコホスピタル研究協力に関する覚書
- 資料8-6 医療看護学部ホームページ「教育の理念と教育目標」
- 資料8-7 保健看護学部ホームページ「学部の基本コンセプト」
- 資料8-8 自治体との連携内容一覧
- 資料8-9 知の拠点事業概要資料
- 資料8-10 平成23年度事業報告書 「10. 寄付講座」
- 資料8-11 平成24年度事業報告書 「10. 寄付講座」
- 資料8-12 平成25年度事業報告書 「10. 寄付講座」
- 資料8-13 佐々木研究所連携協定
- 資料8-14 本学ホームページ「順天堂大学と理化学研究所が包括的基本協定」
- 資料8-15 本学ホームページ「順天堂大学と日立が包括的な産学連携の協定を締結」
- 資料8-16 臨床研究センター月例会議資料（2014年2月）
- 資料8-17 次世代環境医療研究会組織図
- 資料8-18 共同研究契約書（エコ技術）
- 資料8-19 共同研究契約書（高層病院の安全）
- 資料8-20 共同研究契約書（病棟の避難）
- 資料8-21 平成25年度事業報告書 「17. 国際交流活動」
- 資料8-22 2011 2nd International Academic Joint Symposium
Juntendo University-Peking University
- 資料8-23 第2回シャリテ医科大学—順天堂大学 ジョイント・シンポジウムプログラム
- 資料8-24 アジア太平洋メディカルフォーラム プログラム
- 資料8-25 東京医科歯科大学*順天堂大学 餅つき大会 案内
- 資料8-26 2013（平成25）年度 表敬訪問一覧
- 資料8-27 平成23年度事業報告書
「15. 公開講座」、「16. 社会貢献・地域交流・ボランティア活動」
- 資料8-28 平成24年度事業報告書
「15. 公開講座」、「16. 社会貢献・地域交流・ボランティア活動」
- 資料8-29 平成25年度事業報告書
「15. 公開講座」、「16. 社会貢献・地域交流・ボランティア活動」
- 資料8-30 静岡病院ニュース No. 56、58
- 資料8-31 平成23年度事業報告書
「19. 東日本大震災に対する順天堂医療支援活動について」
- 資料8-32 地域卒学生カリキュラム
- 資料8-33 順天堂ホームページ「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」
<http://ganpro-ict-plan.jp/index.html>（既出 資料4-3-18）

第8章 社会連携・社会貢献

- 資料8-34 順天堂大学における社会貢献（平成25年度）
- 資料8-35 国立がん研究センター最先端がん臨床研究コース
（既出 資料4-3-17、資料5-10、資料6-9）
- 資料8-36 順天堂大学における大学間連携（H25実績）
- 資料8-37 学外施設学修申請書
- 資料8-38 さくらキャンパス施設使用規程
- 資料8-39 三島市との協定書
- 資料8-40 保健看護学部 公開講座のお知らせ
- 資料8-41 順天堂大学三島キャンパス施設利用規則
- 資料8-42 社会連携推進室ホームページ
- 資料8-43 2014（平成26年）2月21日（金）東京新聞「東京消防庁新基準適用第1号 順天堂の新病棟で訓練」
- 資料8-44 次世代環境医療研究会2013年度報告書
- 資料8-45 第1回次世代環境医療シンポジウムポスター
- 資料8-46 第2回次世代環境医療シンポジウムポスター
- 資料8-47 第3回次世代環境医療シンポジウムポスター
- 資料8-48 第4回次世代環境医療シンポジウムポスター
- 資料8-49 理研・順天堂共同研究発表会ポスター